

「少女たちのお手紙文化 1890-1940 展 変わらぬ想いは時を超えて」
の実施報告について

- 1 開催期間
2024年1月20日(土)～3月24日(日)
- 2 開催場所
町田市民文学館ことばらんど2階展示室
- 3 観覧者数
4059人/55日間(1日平均:74人)
- 4 特別協力
大正イマジュリィ学会、大正・乙女デザイン研究所、山田俊幸
- 5 協力
お茶の水女子大学歴史資料館、株式会社榛原、
群馬県立土屋文明記念文学館
- 6 開催報告

デジタル化が進んだ現代社会において、手書きの手紙というアナログの通信手段の魅力を改めて検証するため、約100年前に生きた市井の少女たちの書簡を中心に展覧する企画展を実施しました。

普段なかなか公開の機会がない書簡や絵封筒などの個人コレクションを展示したことにより、新聞や雑誌への紹介記事掲載、ラジオ取材などマスコミの注目を集めたほか、郵趣家や手紙愛好者の団体と連携したことで、本来のターゲット層を中心に広く展覧会を周知することができました。

また、展示室内には雑誌の読者投稿欄を模したボードを設置し、来館者に付箋でコメントを残してもらうことで、来館者同士の交流を促しました。本展によって多くの方に、手紙を綴る行為とその周辺の文化を再検討し、時代を超えた「ことば」の力を実感することのできる機会を提供できたと考えます。

(1) 関連事業

実施日	タイトル	参加人数
12月20日	3水スマイル講座「少女たちのお手紙文化」	9人
1月21日	講演会「切手デザイナーのおしごと レトロかわいい切手のひみつ」	63人
1月23日	ふみの日展示解説	10人
2月3日	ふみの日展示解説	10人
2月23日	ふみの日展示解説（追加開催）	6人
3月2日	WS「はじめてのガラスペン教室」	15人
3月17日	トークショー「昭和レトロ・紙ものの魅力」	65人
3月23日	ふみの日展示解説	10人

(2) 資料

書簡や絵封筒などの主な資料は個人コレクターから、雑誌類は主に群馬県立土屋文明記念文学館から借用したほか、当館所蔵の書籍や八木重吉記念館からの寄託資料である八木重吉の書簡等と合わせ、約500点の資料を展示しました。主な出品資料は以下のとおりです。

書簡：15点／絵封筒・封緘紙等：350点／雑誌：65点／書籍：70点

(3) パブリシティ

- ・ポスター・チラシ
- ・「広報まちだ」、「生涯学習 NAVI」
- ・町田市公式HP、SNS（X（旧Twitter）、Instagram）
- ・「読売新聞」大手小町、「朝日新聞」、「東京新聞」、「サンケイリビング田園都市」
- ・ラジオ「SUNDAY'S POST」、「西川あやの おいでよ！クリエイティブ部」
- ・イツコム地モトニュース
- ・「ふみぶみ」、図鑑カフェ fumikura コラボレーション記事

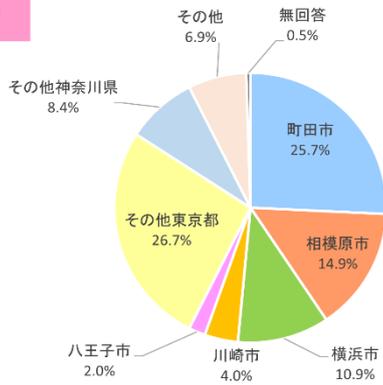
(4) 来館者アンケート

市内からの来場者が全体の26%に留まり、比較的近隣他市からの来場者が多い傾向を示しました。年代は20代から60代までがいずれも15%～18%程度を占め、幅広い年齢層の方にご来館いただきました。

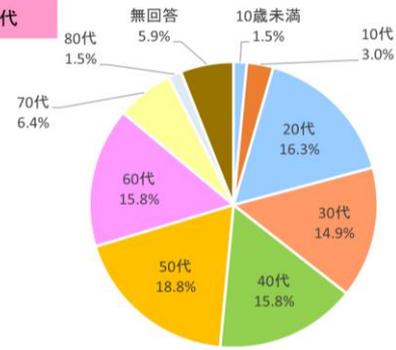
満足度では96.6%の方から満足の評価を得ることができ、「文学史、教育史、デザイン史、メディア史とさまざまに楽しめる展示だと思う」「文化としての手紙のすばらしさを感じた」等の感想が寄せられ、誰もが一度は書いたことのある手紙をキーワードとして、様々な視点から展示をお楽しみいただくことができました。

■アンケート集計より

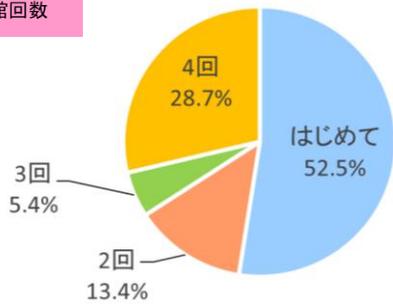
居住地



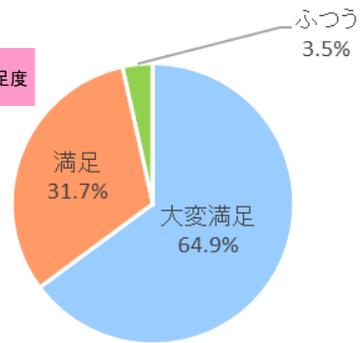
年代



来館回数



企画展の満足度



■展示会場風景

